令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390700029		
法人名	特定非営利活動法人 ファミリーサポートおひさま		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒028-0024 岩手県久慈市栄町32地割37番地9		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町村受理日	令和3年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人ひとりの症状にあったケアをしていくために、「気づき」を大切に、どのようなケアが良いのか職員で検討し、情報共有し取り組んでいる。利用者様との日々の関わりを大切にし、施設ケア基準である、施設は利用者様にとって「安らぎの空間」であり、それぞれの居室は「くつろぎの空間」であるよう、安心して生活していただけるよう努めている。食事は、地場産、季節のものを取り入れ、栄養バランス、彩り、盛り付け方に気を配り、個々の形態にあわせて提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

数年前に、全国の先進事例として「高齢者施設の先進避難計画」を策定した事業所である。様々な課題に前向きに取り組み、組織運営、地域との連携、何よりもチームケアに秀でている。具体的には、事業所理念の実践に当たり個別の目標を掲げなくとも、介護を通じて出てきた新たな課題について職員全員で取り組んでいる。更に、感染症、身体拘束、事故対策などについての研鑽を重ねている例月の研修会は、職員で組織する研修委員会が企画・開催するなど、職員の英知と実行力を如何なく発揮されて、管理者が事業所の強みを「風通しのよさ」としているのも首肯できる。利用者に喜んでもらえる食事を毎日提供し、週3回以上の入浴を原則としていること、これは理念に掲げる「心を込めたケア」の現われの一つといえる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、施設内に掲示し全職員共有できている。研修会を行い確認・意識づけしケアにつなげている	介護の基本原則として理念を「心」とし、心を込めたケア、心の通い合うケア、感謝と尊厳の心によるケアを実践している。年度目標を敢えて定めずに、例月の研修会で理念を基礎としたより良い介護の実践を担保するテーマの理解を深めながら、その時々に挙がった課題について、理念に立ち返り事業所一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。現在コロナ禍であり日常的な交流は難しいが避難訓練時には、毎回協力をいただいている	栄町町内会に加入し、運営推進委員を努める民生委員の方を通じ、避難訓練を始めとした防災対策などに地域の方々の協力をいただいている。コロナ禍以前は、運動会などにお招きいただきく隣接の中学校の体験学習を受け入れ、高校生にはNPO学習の場を提供していたが、現在は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口の設置もしており、相談を地域包括染センターに繋げるシステムがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、書類議事となっているが、各委員のご意見を参考にしサービスの向上に活かしている（災害時、避難訓練等の検討や意見等）	コロナ禍のため、2ヵ月に一度の書面開催としている。毎回各委員から提供資料に対する意見が寄せられ、次回にその対応策等を示し、相互に意思疎通が図られている。事業所独自の避難所を確保する際には、運営推進委員から多大なご支援をいただいたとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進員の中に市町村担当者がおり、実情や取り組みを伝え協力をいただいている（避難所の検討や提案、コロナ対応について情報提供等）	事業所では3，4年前から市の要請に応えて認知症の「困りごと相談」の窓口を継続して開設している。以前、県・市の推薦で「高齢者施設の先進避難計画」として全国2カ所の先進事例の一つを策定した実績もあり、地域包括支援センターを含む行政との協力関係は揺るぎなく、災害時の避難や介護保険制度等の情報も速やかに伝達されている。	

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における施設理念・方針及び身体拘束排除マニュアルがあり、チェックリストで確認している。3ヶ月毎の研修や現状のアンケートの実施している。身体拘束を行わないための勉強会を行い疾病の理解を深めている。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみ施錠している	身体拘束の適正化について、全ての職員が「よくできている」と自己評価している。これは、事業所の方針として、例月の研修会で職員自身が講師となって頻繁にこの問題を取り上げ、研鑽を重ねてきたことにもよる。研修テーマの「身体拘束に関する三つの原則」を励行することが、介護サービスの質の向上にも寄与している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり研修会を行っている。言動・行動・ケアの仕方について各職員がお互いにケアを確認しあっている。また着替えや、入浴時身体の観察をし、傷等がみられたときは報告し職員間で共有しどのようにしてできたものか、原因究明するため話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、研修会で制度の理解・活用の仕方を学び理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やサービス契約時、介護保険の改正に伴う契約時には文書と十分な説明を行い、疑問や不安な思いを減らし理解・納得いただくよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や通院支援時、心配事や要望などの情報収集に努めている。ご家族の不安が解消されるよう席替えや部屋替えも検討し実施している。アンケート配布とそれに伴ったサービスの検討を行っている	コロナ禍により家族の来訪機会が制限されているため、利用者の表情を掲載したお知らせを先月から作成、送付している。事業所独自のアンケートを実施したところ、1/4程度の「まあ出来ている」を含め、全ての家族が「出来ている」としている。今後はこの1/4の方々も「よく出来ている」とされるよう、一層の運営改善に努めたいとしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長との面談を実施している。月1回のリーダー会議では職員の意見や提案、委員会活動の報告や検討を行い運営に反映させている。また職員へのアンケートは事業所の運営や要望を伝える機会となっている	脱衣室の棚の取付けなどの日々の介護に関するものだけでなく、職員で組織する「研修委員会」が例月の研修会の企画を任されるなど、職員の意見・提案が活かされる仕組みが機能している。申し送りは職員の改善提案の場でもあり、その内容は申し送りノートに記録し職員間で共有している。申し送りには、管理者、管理者補佐又はリーダーの何れかが必ず出席し、組織的に取り組む体制も出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は入社時一律となっているが、経歴、勤務状況、資格取得により賃金の引き上げを行っている。各自の能力に合わせた研修への受講費用や旅費等を補助している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修案内を職員へ提示し、職員が希望する研修を受講できる仕組みや外部講師を招き学べる機会を設けている。また月1回行われている施設内研修は担当者制で行っており、資料の準備や教えることで自分も理解を深められるよう考慮している。ペア研修では経験の浅い職員と中堅職員が研修テーマから資料準備等を協力して取り組み3施設合同研修会で発表している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修の参加、他施設職員との交流・意見交換・いわて地域密着型サービス協会（グループホーム・小規模多機能ホーム）の研修会や情報交換会などに参加を予定していたがコロナ禍の影響で開催機会が減っている。介護保険認定審査会への出席では、制度の理解を深め同業者との交流ができている		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前から情報収集に努め、必要なニーズの把握に努めている。入所することへの不安、利用者の気持ちに配慮し安心を確保するための関係づくりに努めている。コミュニケーションを大切にし、困っていること、不安、要望については、特に時間をかけて傾聴し職員間でどのようなケアが良いのか考え、安心して生活していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入以前より、家族様から入居前の様子や困っていること、不安なこと、要望を聞き取りしている。家族様が安心できる声かけや、要望等何でも話しやすい雰囲気つくりを心掛け、信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴・既往歴、利用者様、家族様の思いや意向を把握し必要としている支援を見極め、利用者様にとって良いと思われることは家族様と相談し対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの好きなこと、得意分野を把握し、食材の下ごしらえや食器拭き、タオル干しやたたみ物等をコミュニケーションをとりながら一緒に取り組んでいる。感謝の言葉を伝えお互い様の支えあう関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態に変化があった時は、電話や面会時に伝えている。また、キーパーソンとなる家族様、その他の家族様へ月1回のお便りで利用者様の様子を写真付きで伝えている。課題も一緒に考えていただき、共に支えていく関係を築くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症流行後は、感染防止のため、「新しい生活様式」「業種別ガイドライン」の実施、マスクの着用、「3密」の回避といった基本的な感染対策を継続する中で、面会や外出は感染対策に考慮しながら、家族へ電話やガラス越しでの面会、家族様の通院付き添い等関係が継続されるよう支援に努めている	家族だけが馴染みの人になってきているにも係わらず、コロナ禍のためその家族の面会も制限されている。感染状況に応じ、一時期面会制限を緩和したが、その後現在でも、ガラス越しの面会としている。タブレットを介したインターネット面会の実施を試みたが、希望する家族は居なかったとのことである。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの認知の症状や個性、相性を考慮しテーブルの配置や席を考え良好な関係が築けるよう支援に努めている。また、新しく入居された利用者様には細やかな観察や希望に耳を傾けコミュニケーションがスムーズにできるよう、職員が間に入り関わり合いがもてるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了となられた利用者様の家族へ、その後の状況を伺ったり相談に応じている。入院した場合、他のサービスへスムーズに繋がるよう情報提供や他施設入所申請等の支援を行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様から情報を得たり、利用者様一人ひとりの日常の生活の様子や会話に強い関心を持っている。また、ご本人から聞き取りをしたり、ミーティングや研修時意見を出し合い、思いや意向の把握に努めている	コロナ禍にあって利用者のストレス軽減に「かき氷づくり」を取り入れたのは、かき氷づくりを懐かしむ利用者の会話を職員が聴き取ったことによる。感情の表現が苦手な利用者でも、職員は表情や声のトーンから推察したり、落ち着ける場所で言葉のキャッチボールを行うことにより、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やサービス利用時の様子を担当ケアマネジャーから情報収集している。利用者様から聞き取りや日々のコミュニケーションからも利用者様を深く知るよう心掛けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子、体調や心身状態の記録し、日々の生活の状況から利用者様個々の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・管理者・看護師・職員（必要な場合は作業療法士）がそれぞれの専門性を活かし現状に合った目標設定や課題解決の方法を話し合っている。家族様と利用者様と一緒にプランの確認や検討を行い、変更や加える課題があれば即時に書き加えサービスにつなげている	居室担当はなく、職員皆がいわば居室担当として、利用者の状況変化等を観察し管理者に報告している。計画作成担当者を兼ねる管理者は、これら情報を集約してモニタリングを行なっている。計画は6ヵ月毎に見直し、その際には、関係職員の意見や法人他事業所に在籍する看護師からの助言・指導も反映させている。	

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	種々の毎日に記録を細やかに記録し、毎朝のミーティングや申し送りノートで情報共有し、職員の気づきや工夫でケアの見直しができている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様付き添いの通院時、利用者様の状態により送迎の支援、家族様の状況による通院の支援、その時々に生まれるニーズに対応できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理・美容院への通いやかかりつけ医をこちらの都合で変更しない方針だが、コロナ禍影響で馴染みの理・美容院利用は難しい状況となっている。今後、入所前から利用していた商店での買い物支援など自宅で暮らしていた時の地域資源とのつながりをなるべく絶たないよう取り組んでいきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医の確認をし受診されている。家族様が付き添いの際には、かかりつけ医連絡表へ情報・状態を記し主治医へ伝えていただくようにしている。必要に応じて管理者が付き添い家族様と一緒に様子を伝えている。希望のかかりつけ医で、コロナワクチン接種が可能となるよう支援した	久慈市内での訪問診療は難しいとのことであり、利用者の全員が入居前からのかかりつけ医を受診し、1人は市内の専門医と開業医に通院し、他は県立病院の各受診科に通院している。通院は利用者の状況を理解できるよう家族の付き添いを原則としているが、月に2、3回は管理者が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づいた状態を看護師へ相談、指示にて受診につなげることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、認知症の為、利用者様の訴えが届きにくいことがある。体調不良の訴えやサイン、不安の援助方法を家族様や病院関係者に伝え、入院中も安心して過ごせるよう情報提供している		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を提示し、家族等へ事業所でできることを十分に説明している。終末期迎える利用者様とその家族様には、医師からの医療的見解を踏まえた上で話し合いを重ね今後の方針を決めている。また、利用者様の体調変化時にはいつでも医師と相談できる体制であり、病院と連携しながら援助できている	入居時に看取りを行っていない旨を説明し、本人、家族の同意を得ている。介護度が4程度の段階で、特養への入所申請を勧めている。地域医療の現状から、看取りは行なっていないものの、重度化が進行する場合でも、事業所で可能な限り、かかりつけ医や法人在籍の看護師と協議しながら、利用者の介護を続けたいとしている。	地域事情から現在看取りは困難な状況にあるが、今後、重度化した利用者の介護の比重が高まってくる可能性を見据え、職員全員が一定のスキルを習得できる機会を計画的に設けていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の研修、更新研修を受講し伝達講習を行っている。事故発生時や救急車通報時に備え、フローチャートにより落ち着いて正確に伝えられるよう、施設の住所等を職員が目に付くところに貼り全職員が適切に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間想定の火災避難訓練や水害時の避難訓練を実施している。地域の方との協力体制も得ることができている。防災委員会が中心となり計画やマニュアルの整備を行い、研修会を実施し避難場所・避難経路・持ち出し物品等全職員が把握できるようにしている。また7月、台風8号の接近に伴い、高齢者等避難が発令され、第一避難場所へ避難した	日中に行う夜間想定の避難訓練に際しては、複数の職員が夜間に避難経路等を確認し、暗闇での避難の留意事項を整理した上で実施している。地域の方々からは見守りの協力をいただいている。事業所では、これまでも万全の災害対策に努めてきているが、今夏の台風接近時に行った近くの神社（事業所独自の避難場所）への避難を振返り、事前対応に不足はなかったか等の検証を行なっている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に基づいた感謝と尊敬の心を常に意識して支援している。言葉づかい、声のトーンや態度に気をつけ入浴時、トイレ時、着替え時などプライバシーの配慮に気をつけている。接遇やコミュニケーションの研修で支援について見直しを行っている	理念の「感謝と尊敬の心」とは、利用者を自分の身近な人（=親）と重ね合わせ、一人の人生の功労者として接する心としており、事業所内の「接遇研修」等で学習を重ねている。言葉を出さない利用者の口から出たチョットした一言を大切にし、或いは排泄用品の置き場を工夫するなど、理念に掲げる「心」は、日常の介護の場面で利用者の尊厳とプライバシーの確保に遺憾なく発揮されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方、できない方にあったコミュニケーションの仕方を考え、できる限り自己決定に近い支援になるように努めている。日常の会話に関心を持ち、会話の中や生活の様子から希望や思いを汲み取ったり、自己決定ができる声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの思いや、希望を優先し支援ごとに声かけし意向を伺い一人ひとりのペースを大切にして希望にそった支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後、整容の声かけや、季節に合った衣類を着ていただくよう支援している。利用者様が衣類の選択することが困難な場合は、職員が一緒に選んだり同じ服装にならないように用意している。また汚れた時には、交換するよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの咀嚼力・嚥下状態や食事制限、状態に合わせた食事形態で提供している。盛り付けは、美味しく見えるよう盛り、特に刻み食の盛り付けはきれいに盛るように気をつけている。旬な食材を取り入れたり、菜園で収穫した食材を提供し喜ばれていた。その日のメニューをホールに貼り出し、食事が楽しみになるよう話題にしている。食事の下ごしらえや片づけを一緒に行っている	事業所では、食事は介護の大切な要素と捉え、美味しく、楽しく、参加を得て、その人に応じた形で提供している。敷地内には、デイサービス、小規模多機能ホームがともにあり、副食などの調理は主としてデイサービスが主体に行なっているが、事業所でも調理の一部を担い利用者が参加する機会を確保している。定期的に食に関する研修会を開催し、利用者の健康状態や機能に適した食事の提供に継続的に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を行い全職員が把握できている。残量が続いたときは咀嚼力・嚥下状態、体調や義歯の具合等要因を職員間で話し合い食事形態の変更をしたり、ご本人へ伺い状態に気を付けている。水分確保は、夜間帯や起床時にも勧め特に夏場は気をつけて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりの状態により、毎食後の口腔ケアの声かけや支援をしている。義歯洗浄剤を使用し義歯・口腔内の清潔保持・義歯の状態の確認に努めている。唾液の分泌を促すよう、毎食前に健口体操を実施している		

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握と、トイレへの声かけをし、トイレで気持ちよく排泄ができるよう取り組んでいる。失禁がある方は不快のないよう直ぐ交換している	殆どの利用者はトイレでの排泄願望が強く、自立又は自立に近い状態にある。職員も利用者の意思に合わせた排泄介助とし、「さっきトイレに行ったよね」は禁句とし、1人を除き夜間も声掛けは行わず、遠目での見守りとしている。1人は重度化が進行し、夜間も30分毎の「観察」としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便時には便の状態の記入、排便チェックで排便の有無の把握をし、食事・水分補給・運動で便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日以上の入浴を基本とする中で、個々の希望や状態に合わせて気持ち良く入浴していただけるよう支援している。入浴日には『今日は、お風呂の日です』の掲示をし、季節時には菖蒲湯、柚子湯を取り入れ季節を感じていただき、コミュニケーションをとりながら、安全に配慮しリラックスして入浴していただけるよう支援に努めている	入浴は、リラックス効果等に加え、利用者の全身を観察し疾病の早期発見にも有効なことから、週3回以上（4回の利用者もいる）を基本とし、月、水、金の午前中に職員が4人がかりで支援している。利用者が自分の時間の流れの中で自然に浴室に向かえるよう、浴室の前に「今日は入浴日」の札を下げ、介助は同性としている。入浴を嫌がる方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にリネン・パジャマの交換を行い、安眠できるよう室温、寝具等の調整を行っている。体調に合わせて休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースには薬名・効用・用量を記し服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。お薬情報は全職員いつでも見れるようにしている。誤薬・飲み忘れがないよう2重・3重に確認し記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の可能な作業、共有スペースの廊下の清掃、テーブル拭き、フェイスタオル干しやたたみ物、食材の下ごしらえ、食器拭き等に取り組まれたり、歩行訓練を行うことで張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在は外出を自粛している。施設でできる菜園収穫や行事に参加していただく等、外出が制限される中、工夫して楽しみを持っていただけるよう支援している（かき氷作り、お茶会、誕生日会、ハロウィン等）。出掛けた場所や思い出の場所の聞き取りを行い、掲示物（壁画作成）で旅行気分をもっていただけるよう計画中である	コロナ禍のため外出がままならない毎日が続き、日光浴も天候が許す日を選んで事業所の外に出る程度となっている。そのため、ハロウィン等の行事を新たに設けているほか、午前中には事業所内を10分程度歩き、午後には体操の時間を設け、利用者のストレスと運動不足の解消を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用でき、いつでも必要なものを購入できることを伝えている。希望時は職員が買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話を使用できるよう支援している。携帯電を持参されている利用者様は自室に置かれ利用されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れた明るい建物で室温、湿度、空調の管理を行い快適に過ごしていただけるようにしている。利用者様が取り組まれた塗り絵壁画の掲示、季節の花を飾り季節感を採り入れている。共有空間のホールからは菜園や季節の花が見え、季節を感じてもらい居心地よく過ごしていただけるようにしている	4組のテーブルが配置された共用空間は、どこにいても自宅にいるように寛いでいただくことを大切にしている。吹き抜けからは明るい自然光が差し込み、テーブルの席は、本人や家族の要望を伺いながら、それぞれの利用者の指定席とし、職員も一緒に座れるよう余裕をもって椅子が置かれている。壁には、レク委員会発案の壁画が飾られ、方言一覧や野菜一覧、塗り絵が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファや椅子は、独りになりたい時や気の合った利用者様同士会話を楽しめる居場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、写真や置物を持ってきていただき、居心地よく過ごしていただけるよう支援している	ベッド、チェストが備え付けられ暖房はパネルヒーターになっている。利用者は使い慣れた物を持込み、壁にはカレンダーを貼っている利用者もいる。2人の利用者は、毎日、夫の遺影にご飯をあげている。手すりやドアノブの消毒は毎日複数回、職員により行われている。	

令和 ３ 年度

２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひだまり

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は明るく、共有空間は手すりがあり段差のないバリアフリーで安全に歩行できる環境となっている。また、利用者様の状態に応じて歩行の見守りや付き添いを行い安全に配慮している		